

市内の小・中学校では、子どもたちが心身ともに健康で人間性豊かに育つよう、工夫を凝らした取り組みを進めています。今号ではコロナ禍において開校50周年を迎えた第九小学校と、「SDGs」を研究した東中学校の取り組みについて紹介します。

### 新しい生活様式における開校50周年の取り組み

今年度、本校は創立50周年を迎えます。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、式典の開催をはじめとした関連行事の実施が難しい状況となりました。学校行事が軒並み縮小、延期、中止となっていく中、第九小学校の50周年をどう迎えようか悩みました。しかし、「こんな時だからこそ、創立50周年の節目の年に本校の在校生だった

みんなと祝いたい」という思いを抱くようになりました。さらに、地域や保護者の方々からも温かく前向きなご意見やご助言をいただき、日ごろから第九小学校のことを気に留め、大事に思ってくださいていることを身に染みて感じました。そこで、新しい生活様式下での50周年行事を関係者全員で検討し、実施することとしました。

まずは、記念式典や祝賀会の実施についてです。コロナ禍でこれまでのように実施することは難しい状況の中、実施可能な形を模索しました。本校第6期卒業生でもある木村さんを委員長とする周年行事委員会を組織し、検討を重ねました。創立50周年という節目の年を多くの方々から祝福していただきたい気持ちと伝統や歴史を積み重ねてきた諸先輩方に感謝の意を表したいという気持ちから、この状況下でも実施可能な式典と祝賀会を考えました。内容、規模、時間共に縮小せざるを得ませんでした。50周年を迎えた喜びが伝わるような心のこもった会にできたらと考え、令和3年2月12日に開催する予定で準備を進めました。また、開校記念集会50周年を記念して、第九小学校のキャラクターを考えました

(図1)。全校児童にキャラクターの図案を募集すると、300通ほどの応募がありました。それぞれのキャラクターには作成した児童の第九小学校に対する思いが文章で綴られており、感慨深いものがありました。最終的には全校児童による投票で決定しました。50周年を記念して決定した本校のキャラクターは、くじらのキュウちゃんとクーくんです。早速、お便りやホームページなど様々な場面で活用しています。

11月2日(月)には、50周年記念集会を行いました(写真1)。全校児童が一堂に会すことはせず、テレビ放送による集会となりました。代表委員長によるお祝いの言葉で始まり、キャラクターの発表と作成者の表彰を行いました。九小キャラクターの候補となる図案をしばらく校舎内に掲示していたので、毎日眺めながら子どもたちは自分たちなりに予想していたようで、発表場面では教室から歓声が上がりました。全ての応募作品を校舎内の掲示板にしばらく掲示しました。その後、集会委員会が考えた第九小学校の歴史や特徴をペーパーサートや寸劇クイズにして振り返る企画を披露しました。テレビ番組のようなVTRに仕上げ、テレビ放送で全教室に流しました。集会終了後は全校児童による航空写真と全校集合写真の撮影も行いました。航空写真の図案は幾つかのパターンの中から全校児童による投票を行い、決めたものです。当日は気持ちの良い秋晴れの空の下でドローンによる航空写真の撮影が行われ、上空高く上がっていくドローンにまたもや歓声上がり、機体が見えなくなるまで目で追う子が多くいました。運動会や学芸会等の学校行事がコロナ禍で中止になる中、密をつくらぬ工夫をしながら実現可能な計画を模索してきました。その結果、実現したのが学年ミニ運動会や学年発表会です。

周年行事も縮小、簡略化せざるを得ない状況ではありますが、50周年を迎えるという本来の趣旨を大切にしながら、周年行事委員会の皆様とともに式典や祝賀会の準備を進め、この記念すべき節目の年をみんなで祝いしました。(市立第九小学校長 大友 基裕)

### SDGsを通して一人一人が「持続可能な社会の創り手」となることを目指して

SDGs(エスディーズ)(図2)とは「持続可能な開発目標」と言っており、2030年を目標に世界中の人々が協力して17のゴール(国際目標)の達成を目指そうとするものです。

今、地球には環境問題をはじめとして様々な問題があり、これらの問題をそのままにしておくことと取り返しのつかない地球になってしまうと心配されています。そこで、そうなる前に、世界中の人たちが身近にできることから始めて、「誰一人取り残さない社会」を実現してい



※SDGsのアイコン

こうと活動することが求められています。そのため東中学校では東京都の教育課題の研究指定校となり、自由学園副学園長の成田喜一郎先生にご指導をいただきながら、2年間にわたりSDGsについての研究を行いました。もちろん、世界で起きている環境問題や貧困や戦争の問題を直接解決する方法を考えるのではなく、「学校という立場で何ができるのか」を研究しました。令和元年度(研究1年目)は理科で「生物界のつり合いが崩れるとき」、特別の教科 道徳で「みちよの海外での挑戦」などの研究授業を行うことから始め、講演会等も開いて「国際連合の職員」や「国際ジャーナリスト」に来校していただき、世界で起きている問題について話を聴きました。さらに、東久留米市青年会議所の方々にも協力していただき、「SDGsカードゲーム」(写真2)とってゲーム感覚でSDGsに触れてみることも体験したり、文化祭でSDGsについて調べたことを発表したりしました。

その結果、1年目の研究では「世界の問題は自分たちには直接関係ないと思っていたが、身近に感じるようになった」など生徒から感想が聞かれました。

令和2年度(研究2年目)は学年を超えた生徒で構成される異学年グループを編成して、17のゴールのうちのどれかを選んで総合的な学習の時間を使って実践し発表する活動を行いました。この実践は学年の違う生徒がグループで意見を出し合い活動するといった点で意義のあるものでした。各グループのテーマをまとめると「クイズで学ぶ貧困」「飢餓をゼロにするレシピ」「医療格差」「フィンランドの教育」「ジェンダーフリー」「落合川の水生生物や水質調査」「東中の電気代や水道代の調査」「クラスのゴミ箱の中身」「発展途上国の産業」「差別やいじめ問題」「スラム街の実態」「東中の食品ロス」「PTAと共同での古紙回収」「気候変動の影響を冊子に」「日本の水産資源」「ポイ捨ての海への影響」「おいしい魚をたべるために」「海が汚れる原因」「森林喪失と絶滅危惧種」「平和と公正について小さな問題から解決」「SDGs ロゴマークダンス」など22の内容に分かれて実践し、これらを研究発表の時間を設けて分かりやすく発表することにも挑戦しました。

2年間の研究を通して、生徒は、「研究前は世界の現状について知らなかったことが多かったが、今後は地球の課題について一歩ずつ解決するお手伝いのできたらいいと思う」「自分の身近なことを実践していくだけで世界や各国が良い方向になっていくことに本当に驚いた」「SDGsの本質をより多くの人々が理解し実践する取り組みをしたい」などの感想をもつことができ、未来に責任をもたなければならないという意識に変わり始めました。また、教員にとっても、適切な課題を設定して、各教科で連携して授業を進めていくことで学びが深まっていくことが、この研究から学び取ることができました。

2030年まであと9年です。少しでも平和で住みよい地球になるようにSDGsの実践が大切であると実感する研究となりました。

(市立東中学校長 松田 正)

## 市立学校の取り組みを紹介します

学校長から

図1 キュウちゃんとクーくん

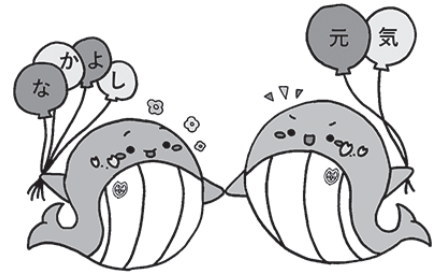


写真1



写真2

